

られました。自殺でした。学級全員で参列した葬儀からの帰り道で、子どもたちは母を亡くした友たちのことを「かわいそう」と涙していました。ところが、Aさんは、「もつたいない。おぼちゃん、何で死んでもうたんね。もつたいないよう。もつたいないよう。」と泣きじゃくっております。

母を亡くしたAさんは、いのちの大切さを痛いほどに認識していたでしょう。「もつたいない」と「かわいそう」と、大きなずれを感じてしまいました。

三、家族でいのちを見つめる

子どもたちは、いのちの誕生から成長、終末に至るまでを家族の中で守られ、支えられて生きていきます。家族といってもむかしと違っ

て核家族がふえてきていますし、家族の一人ひとりがそれぞれ自分のスケジュールに追われて生活している現代は、会話が少なく、互いに理解し合うことができにくくなってきていますが、あえて三つの場面をとらえ、家族ですすめるいのちの教育について考えてみようと思います。

●まず、いのちの誕生です。

子どもの誕生日に家族の中でどんなことが話題になるのでしょうか。子どもが生まれた時の家族のようす、家族一人ひとりの気持ちなどを聞かせていただくと、子どもたちは、自分が家族の方々の願いと心からの祝福を受けていのちをいただいたことを感動的に認識することでしょう。また子どもの名前は誰が、どんな気持ちでつけて下さったのかを聞かせていただくな

ど、自分のいのちの誕生によせられた家族の方々の愛情を感じとり、あたたかいのちのつながりに気づくよい機会になることでしょう。

若いお父さんが実践しておられるご自分の誕生日の過ごし方を紹介します。

ご自分の子どもさんたちには、誕生日には自分へのいのちを下さった両親を招き一緒に会食をしようと呼びかけておられます。お母さんの誕生日にはお母さんのご両親を招待されるそうです。子どもさんたちは父母の誕生日ごとに親とまたその親、祖父母とのいのちのつながりを目前に見せてもらいます。この機会を通して自分のいのちと親のいのち、そのまた両親のいのちと続くいのちの連続に気づくことでしょう。

これは一例ですが、それぞれの家族の生活にあった誕生日の祝い方もくふう次第でい



このたび、町地区世話人の長沖和子さんに代わり、尾川不二子さん、小泉信江さんがお二人でお世話をされることになりました。また、西辰川地区の久保アヤコさんに代わり、菖蒲田美子さんが、長ノ木地区の岡崎久子さんに代わり、中道玉枝さん、物付地区の立真裕子さんに代わり、齋藤久仁子さんがお世話下さいます。また、蔵本通支坊法座世話人として、関分信子さんが退かれ、脇えき佐々木信子、古川未子さん、坂田和子さんが新たにお世話下さいます。皆さんどうぞ宜しくお願いします。旧世話人の皆さん、長い間本当に有難うございました。



菖蒲田美子さん



小泉信江さん



齋藤久仁子さん



中道玉枝さん



尾川不二子さん

のちの教育をすすめる場として生かされると思います。(つづく)これは『学校教育』広大附属小学校教育研究会編に掲載されたものです。